

令和5年度  
市民自治を考える市民ワークショップ  
報告書

令和6年3月

札幌市市民文化局市民自治推進室



# 目 次

第1章 開催概要.....	1
1. 開催目的.....	1
2. 事業概要.....	1
(1) ワークショップテーマ.....	1
(2) 参加者選出.....	1
(3) 開催日時等.....	1
第2章 ワークショップの実施方法.....	2
1. 当日のタイムスケジュール.....	2
2. ワークショップにあたって.....	3
3. ワークショップの概要.....	4
(1) グループの編成.....	4
(2) ワークショップの流れ.....	4
第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施.....	5
1. 情報提供.....	5
(1) 情報提供①『市民参加の必要性』と『札幌市自治基本条例』について.....	5
(2) 情報提供②「市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れと 札幌市及び他自治体の取組」について.....	5
2. ワークショップのテーマと出された主な意見.....	11
(1) ワークショップのテーマ.....	11
(2) ワークショップで出された主な意見.....	12
3. グループごとの意見の概要.....	17
(1) Aグループの意見の概要.....	17
(2) Bグループの意見の概要.....	19
(3) Cグループの意見の概要.....	21
(4) Dグループの意見の概要.....	23
(5) Eグループの意見の概要.....	25
(6) Fグループの意見の概要.....	27
(7) Gグループの意見の概要.....	29

<b>第4章 参加者アンケート</b> .....	<b>31</b>
1. アンケート実施概要.....	31
2. アンケートの質問項目と結果.....	31
3. 参加者アンケート結果のまとめ.....	40
(1) ワークショップ全体について.....	40
(2) 情報提供について.....	40
(3) ワークショップについて.....	40
<b>第5章 ワークショップの考察</b> .....	<b>41</b>
1. 市政に関する情報を正しく市民に伝えるため方法.....	41
2. 市民の意見を行政に届ける方法や市政への参加のあり方.....	42
<b>第6章 資料編</b>	
1. 情報提供資料	
2. アンケート票	

# 第1章 開催概要

## 1 開催目的

札幌市では、「自分たちのまちを自分たちで考え、話し合い、行動する」という市民自治の理念に基づき、市民自治によるまちづくりを進めるため、平成19年4月1日に「札幌市自治基本条例」（以下「条例」という。）を施行した。

また、令和5年7月13日に第5次市民自治推進会議を設置し、「よりの確な市民意向の把握や市民意見を市政へ反映するための手法」などについての検討を行い、令和7年5月ごろに提言（報告書手交）を予定している。

そこで「令和5年度市民自治を考える市民ワークショップ」では、第5次市民自治推進会議で検討している市民参加手法の仕組みの議論を深めるため、また、条例第31条の規定に基づき、本市の施策等が条例の趣旨に沿って整備・運用されているかどうかを評価するにあたり市民の意見を聴き参考とすること目的として開催した。

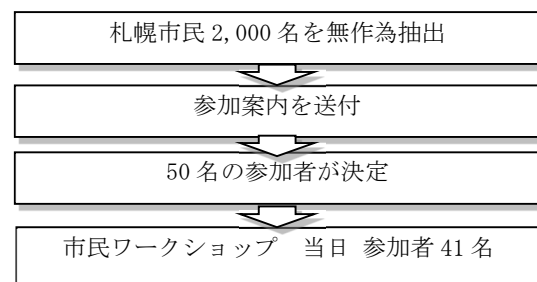
## 2 事業概要

### (1) ワークショップテーマ

「市民の意見を市政に反映させるために」

### (2) 参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、無作為に抽出した札幌市民2,000名に対し参加案内を行い、参加者50名を決定した。その後、欠席連絡等があり、当日の参加者は41名であった。



#### ■参加者数内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	
男性	0	2	2	2	5	3	4	18	41
女性	0	3	1	4	6	3	6	23	

### (3) 開催日時等

子育て世代や仕事をしている方もいるため、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、祝日の開催とした。なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には後日振込で謝礼を支払った。

#### ■開催日時

日時	令和6年2月23日（金・祝）13:00～16:00
場所	北海道立道民活動センター（かでの 2.7）4F 大会議室 （中央区北2条西7丁目）
参加者数	41人

## 第2章 ワークショップの実施方法

### 1 当日のタイムスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。


時間	内容
13:00	1. 開会、あいさつ
13:05	2. 情報提供① (15分) 『市民参加の必要性』と『札幌市自治基本条例』について ・なぜ市民参加が大事なのか ・札幌市自治基本条例の概要、情報共有・市民参加の状況など
13:20	3. 情報提供② (20分) 市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れ等について ・市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れの紹介 ・他自治体での取組の紹介
13:40	4. 休憩 (10分)
13:50	5. ワークショップ① (50分) 「市民が必要な情報を得て、市政に関する考えを深めるためには？」
14:40	6. まとめ (15分)
14:55	7. 休憩 (5分)
15:00	8. ワークショップ② (40分) 「誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするためには？」
15:40	9. まとめ (15分)
15:55	10. 閉会、アンケート記入



## 2 ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

### ■当日の案内

 **令和5年度 市民自治を考える市民ワークショップ**  
**参加についてのご案内**

ご参加にあたってのご案内事項、注意事項などを記載しています。事前にお読みください。  
ご不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は最後に掲載しています。）


【ワークショップの概要】  
札幌市では、**市民が主役のまちづくり（市民自治）**を進めるための基本的なルールである「札幌市自治基本条例」を定め、平成19年4月に施行しました。  
市民が主役のまちづくりを実現するためには、市民の皆様がまちづくりに参加していただくことが必要不可欠です。条例でも、「市民参加」を重要なものとして位置づけています。  
より多くの市民の皆様が市に意見を届けやすくなるために、また、それを市が把握し市政に反映していくためにはどうしたら良いか、グループに分かれてお互いの意見を尊重しながら、自由に意見を出し合い、話し合ってください。いただいたご意見は、今後の市の取組や施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。


**日時**  
令和6年2月23日（金・祝日）13:00~16:00（12:30受付開始）

- 受付は12:55までにお越しください。「参加者確認票 兼 口座振替申出書」をご提出ください。
- ワークショップ会場（大会議室）の開催は12:30頃を予定しています。

**会場**  
北海道立道民センター（かつて2.7）大会議室  
（札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル4階）

- アクセス：地下鉄「さっぽろ」駅より徒歩5分  
地下鉄「大通」駅「西11丁目」駅より徒歩11分
- 参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただくか、近隣の駐車場をご利用ください。
- 交通費、駐車料金は参加者負担となりますのでご了承ください。

<会場付近案内>  


<4階フロア図>  
**4F**  
  
たけふさぎ

**当日ご持参・ご提出いただくもの（事前の記載・捺印必要）**  
「参加者確認票 兼 口座振替申出書」…この郵便に同封しています。

- 参加報酬の振込先口座について、「口座振替申出書」欄の必要事項のご記載と捺印をお願いします。
- ご記載にあたっては、「口座振替申出書」欄の注意事項（※1~5）をよくご覧ください。

**参加報酬について**  
全時間等参加された方に、ワークショップ終了後に、参加報酬を口座振込でお支払いいたします。

- 参加報酬は3,000円で、源泉徴収はございません。ワークショップ終了後、1か月程度での入金となります。
- 事前・当日のお支払い、口座振込以外のお支払いはいたしません。
- 「参加者確認票 兼 口座振替申出書」を当日お忘れになった場合や、記載に誤りや漏れなどの不備がある場合は、振込が大幅に遅れることがあります。記載内容を今一度よく確認のうえ、当日忘れずにご持参ください。

**参加できなくなった場合**  
万一、参加できなくなった場合は、必ずご連絡をお願いします。（連絡先は最後に掲載）

- 今回のワークショップは、あらかじめ決定した参加者数をもとに準備しておりますので、特段のご事情がない限り、ご出席くださいようお願いいたします。
- やむを得ず参加できなくなった場合は、できるだけ早めにご連絡くださいようお願いいたします。

**当日、交通事情などにより遅れる場合**  
当日遅れる場合も、可能な限りご連絡をお願いします。（連絡先は最後に掲載）

- 天候によっては移動に時間がかかることも考えられます。余裕をもってお出かけください。
- 会場へのご到着が遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いします。ご連絡がなく、開始時刻から相当時間を経過した場合は、ご欠席と判断することがございます。

**その他**

- 館内・敷地内は禁煙ですので、喫煙はご遠慮ください。
- ワークショップ中は、携帯電話の電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
- 本市のホームページに掲載するため、写真を撮影いたします。また、ワークショップは公開となりますので、報道機関や見学者が入る可能性があります。本市や報道機関が撮影する写真や映像などに映り込む可能性がありますので、ご了承ください。

**ご連絡先・お問い合わせ先**

**平日**のご連絡・お問い合わせ先  
011-211-2253（札幌市役所 市民自治推進課）  
ご連絡可能な時間帯 8:45~12:15 または 13:00~17:15  
※ 時間外には応答できない可能性があります。また、市役所閉庁日（土曜・日曜・祝日）は応答できませんので、あらかじめご了承ください。

**ワークショップ当日（2月23日）**のご連絡・お問い合わせ先  
090-9521-9386（当日の緊急連絡専用電話）  
ご連絡可能な時間帯 令和6年2月23日（金・祝日）12:00~13:30  
※ 上記時間帯以外には応答できませんので、あらかじめご了承ください。

### 3 ワークショップの概要

ワークショップは「市民の意見を市政に反映させるために」をメインテーマに設定して、情報提供後に、メインテーマを踏まえたワークショップを2回実施した。

#### (1) グループの編成

意見交換は7グループ(1グループ7名程度)を作り、メインテーマを踏まえてテーマを設定したワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①での意見を踏まえて、ワークショップ②での意見交換を行うためにグループの再編成は行わなかった。



また、意見交換を円滑に進めるため、総合ファシリテーター1名とテーブルファシリテーターを各テーブルに1名ずつ計8名配置し、参加者の意見を引き出し、まとめた。

#### (2) ワークショップの流れ

##### 1) 進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

##### 2) ワークショップ

##### ①「市民が必要な情報を得て、市政に関する考えを深めるためには？」(50分)

###### 意見交換のポイント

- 情報が十分に届いていない人には、どのように情報を届けるのか。
- 特定の情報しか届いていない人には、どのように様々な情報を届けるのか。
- さらに考えを深めるために、どのようにすればよいのか。

##### ②「誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするためには？」(40分)

###### 意見交換のポイント

- 市民が市政に参加するためのアイデアは？

##### 3) グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、発表を行った。



##### 4) まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向等をまとめ、確認した。



### 第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施

#### 1. 情報提供

##### (1) 情報提供①『市民参加の必要性』と『札幌市自治基本条例』について

札幌市市民文化局市民自治推進室より、市民参加がなぜ必要とされているのか、札幌市の市民自治基本条例ができた背景や内容、市から市民への情報提供と市政への市民参加の方法に加え、市民参加に関わる件数について情報提供を行った。

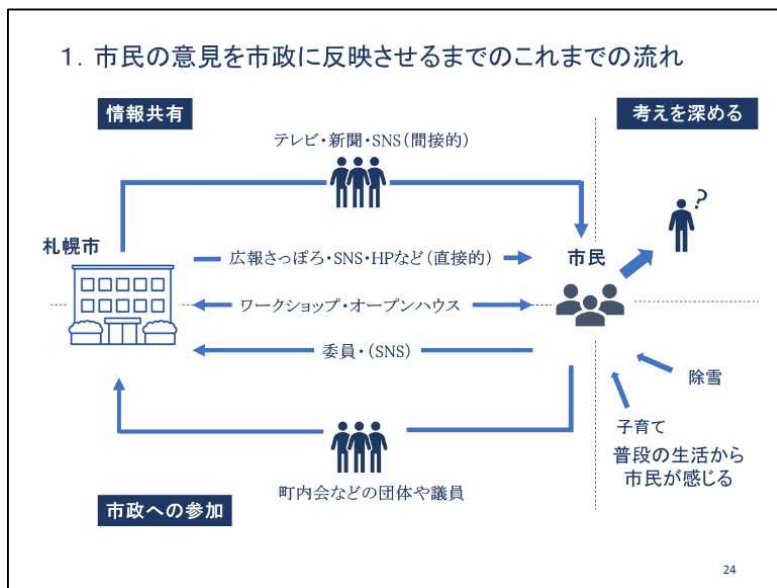
##### (2) 情報提供②「市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れと札幌市及び他自治体の取組」について

株式会社 Glocal Design より、市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れを仮想の例も提示しつつ、情報提供し、参加者のワークショップの議論のテーマについての理解を深めた。

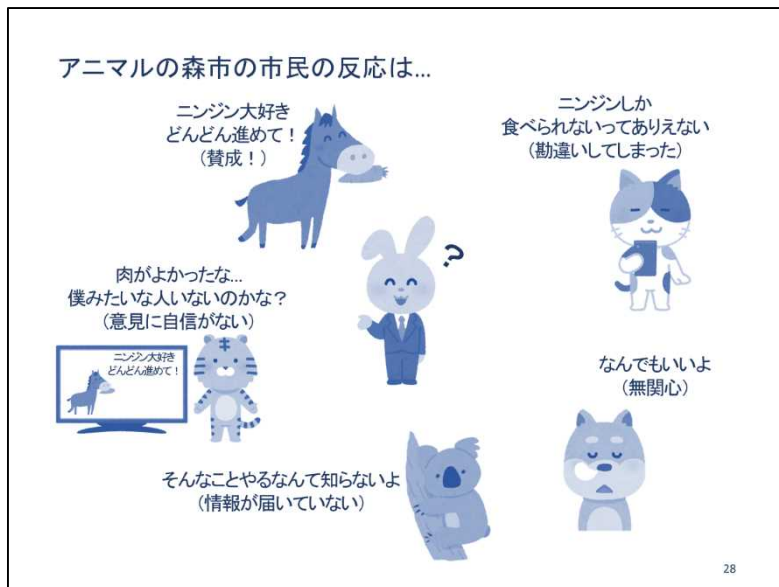
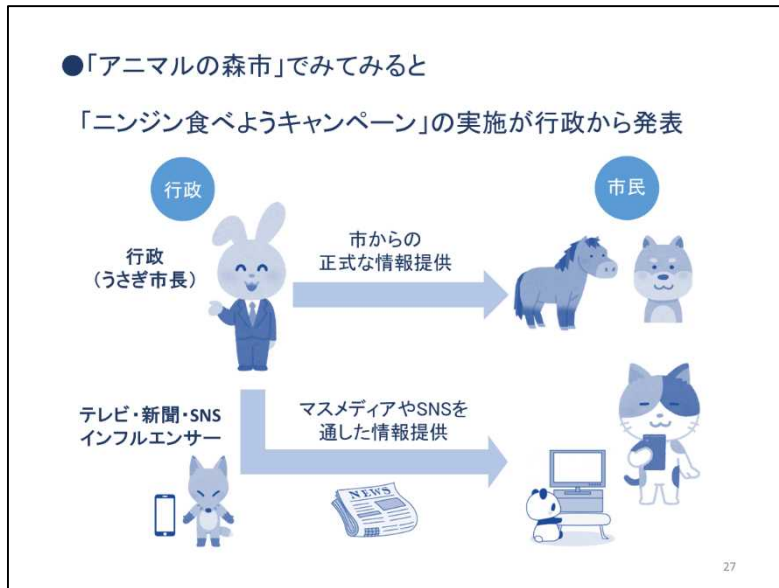
また、札幌市及び他自治体で行われている取組について、情報提供し、参加者がテーマに対しての意見やアイデアを考えやすくなるように努めた。

#### <市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れ>

##### ■ 図示での情報提供



■ 仮想の例での情報提供



## <札幌市での取組>

### ■事例1：住民説明会への参加

2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

(1) 住民説明会への参加

- 札幌市などの行政がまちづくりに関して説明する会に参加する方法です。

情報共有  
考えを深める  
市政への参加



札幌市 丘珠空港の将来像(案)に関する住民説明会

30

### ■事例2：審議会・委員会への参加

2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

(2) 審議会・委員会への参加

- 札幌市が主催する、審議会(行政機関が意思決定を行う際に意見を求める複数人の機関)や委員会(上位機関のために作業する機関)に市民委員として参加してもらう方法です。

情報共有  
考えを深める  
市政への参加



札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会  
真駒内駅前地区まちづくり検討委員会

31

### ■事例3：オープンハウス

2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

(3) オープンハウス

- 公共空間などを活用し、通りがかった人に声をかけて、積極的に意見を集める方法です。

情報共有  
考えを深める  
市政への参加



丘珠空港の将来像(案)に関するオープンハウス  
(苗穂イオンモール)

札幌市 戦略ビジョンオープンハウス  
(地下歩行空間で実施)

32

## ■事例4：意見交換会・交流会

### 2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

(4)意見交換会・交流会

- テーマを設定し、自由に意見を交わしてもらう方法です。
- 未来塾+LABOでは、地域コミュニティについての意見交換会を行いました。
- そしてその結果を踏まえ、「家に帰る前にふらっと立ち寄る地域の場所」の創出のために、実際にイベントを実施し、参加者からも意見を募集しました。

情報共有

考えを深める

市政への参加



第1回未来塾+LABO

第3回未来塾+LABO

33

## <他自治体での取組>

### ■事例1：静岡県牧之原市 話し合いの場「男女共同サロン」

**2. 他都市の事例：静岡県牧之原市**


(1)話し合いの場「男女共同サロン」

- 人口 約4万5千人
- 『津波防災まちづくり計画』を策定をきっかけに「男女共同サロン」として市民がまちづくりについて話し合う仕組みができた。
- 話し合いの進行は市民が行い、行政職員や専門家なども同じ立場で話し合う。
- まちづくりへの思いを、住民同士で話し合い、実現させる場となっている。

情報共有

考えを深める

市政への参加



34

### ■事例2：佐賀県武雄市 SNS を使った行政と市民のコミュニケーション

**2. 他都市の事例：佐賀県武雄市**

(2)SNSを使った行政と市民のコミュニケーション

- 人口 約4万8千人
- 1万4000人以上が「いいね」し、リアルタイムで市民と行政のコミュニケーションができるチャンネルとして使われている。
- 例えば、路面のトラブルでは投稿があった翌日に道路整備の担当の課が現地に向かうなど、武雄市は迅速な対策がとられている。

情報共有

考えを深める

市政への参加



35

### ■事例3：神奈川県横浜市 財政のみえる化と官民連携の提案窓口

**2. 他都市の事例：神奈川県横浜市**

(3)財政のみえる化と官民連携の提案窓口

- 人口 約372万人
- WEBサイト「横浜市財政見える化ダッシュボード」を開発し、民間事業者の皆様が、各予算事業に対して公民連携の提案ができる機能をつけている。
- 民間事業者からの連携に関する相談・提案を受け付ける総合窓口として、「共創フロント」を設置し、運用。
- 各予算事業ページに「提案ボタン」があり、事業の提案ができるようになっている。

情報共有

考えを深める

市政への参加



36

## ■事例4：富山県氷見市 市役所庁舎・フィーチャーセンター

### 2. 他都市の事例：富山県氷見市

#### (4) 市役所庁舎・フィーチャーセンター

- 人口 約4万8千人
- 「氷見市を市民と行政が一番近い街にしたい」という市長の考えから、多様な主体が対話を通じて問題解決を考え、実行する場を市役所庁舎を設けた。
- フィーチャーセンターは市民やNPOなどさまざまな人が出入りし、話し合い、クリエイティブな対話を促す場となっています。
- 市民との協働をコーディネートする役割として、地域担当職員を配置しています。

情報共有

考えを深める

市政への参加




37

## ■事例5：台湾 vTaiwan

### 2. 他都市の事例：台湾

#### (6) vTaiwan

- 「vTaiwan」は台湾に居住する国民なら誰でも意見を投稿したり、他の人の意見に「いいね」したり、コメントでディスカッションしたりできます。
- 一つの提案に5000人以上の賛同者が集まると、行政側は必ず請願として受け付け、書面にて回答を出さなければなりません。
- SDGsにまつわるもの、かつ幅広い部門が関わるような提案については、ステークホルダーと関連の政府部門が参加して、議論することになっています。

情報共有


考えを深める

市政への参加


**議題**

インターネット上にあるvTaiwanでの  
全国民からの意見の発言、投票

**賛成**



**反対**



5000人以上なら行政は請願として受付、書面にて回答

38

## ■事例6：アメリカ Decidim

### 2. 他都市の事例：アメリカ


#### (6) Decidim

- Decidimは、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースの参加型合意形成プラットフォーム。
- アメリカのニューヨークでは9歳から24歳の若者が参加でき、アイデアの提出・投票権を付与。投票には、紙の投票用紙・電話投票の手段もあります。

情報共有


考えを深める

市政への参加



**アイデア**

例) たばこの吸い殻を捨てるごみ箱の増加  
簡易トイレの設置  
図書館の修理  
花や木を植える...



紙や電話での投票も受け付けている。

「Decidim」を使ったサイトからの投票、さらなるアイデアの投稿

**予算・優先順位決定**

図書館の修理・・・△△△△\$

簡易トイレの設置・・・□□□\$

ごみ箱の増加・・・〇〇〇〇\$

花や木を植える・・・××××\$

39

## 2. ワークショップのテーマと出された主な意見

### (1) ワークショップのテーマ

ワークショップは、以下の2つをテーマとして実施した。

#### 1) テーマ①『市民が必要な情報を得て、市政に関する考えを深めるためには？』

札幌市における「市民参加の必要性」と「札幌市自治基本条例」に関する情報提供や、市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れと他自治体などでの事例紹介（情報提供①・②）に関する情報提供を踏まえ、下記3点をテーマに行政と市民が取組めることや市民が留意する点などについて考えた。

- 1) 情報が届いていない人にどう情報を届けるか
- 2) 様々な情報をどのように届けるのか
- 3) 考えを深めるためにどのようにすればいいのか

	情報が届いていない人に どう届けるか	様々な情報を どのように届けるのか	考えを深めるために どのようにすればいいのか
行政			
市民			

#### 2) テーマ②「誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするためには？」

ワークショップ①では、市民に市政に関する情報が届き、その上で市民が情報について考えるまでの流れをグループごとに考えた。

ワークショップ②では、ワークショップ①を踏まえ、あらゆる市民が考えた意見を市政へ届けるためのアイデアについて考えた。

意見交換は模造紙を用いて行った。

## (2) ワークショップで出された主な意見

### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

#### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

##### 【行政としてできること・やるべきこと】

##### ●市民の世代や属性にあわせて情報を届ける

- ・世代によって情報入手のツールや仕方が異なる。
- ・若代世代など、世代にあった SNS (Instagram や X など) での発信が重要である。
- ・SNS などデジタルツールだけでなく、町内会と連携した回覧板などでの情報提供やテレビやラジオといったマスメディアとの連携も重要である。

##### ●市民が交流しながら情報を入手できる場や機会をつくる

- ・ワークショップやオープンハウスなど民間企業とも連携し、行政や市民、市民同士が交流をしながら情報を入手でき機会が必要である。
- ・ワークショップなどでは、テーマにあった専門家にも参加してもらい、市民がより詳しい情報を入手できるようにする。

##### ●市民に直接情報を提供する

- ・地方の自治体では、防災無線などで行政から直接情報提供を行なっている。
- ・災害時などを想定して、広報無線の使用やドローンを用いて情報を直接届けることも必要である。災害時には、こうした方法が効果的である。

##### ●行政から情報を届ける際の工夫

- ・市民にとって行政からの情報は、気軽に簡単に入手できることが重要である。
- ・詳細な情報を入手しやすいように、札幌市のホームページの工夫することが必要である。
- ・雪などの分野別で情報がまとまっているとよい。
- ・行政情報は、メリットとデメリットをあわせて提供することが必要である。
- ・わかりやすさを重視して情報提供することが必要である。
- ・行政として市民に知ってほしい情報を提供する場合には、市民の関心の高い情報とあわせて届けるといった工夫も必要である。
- ・市民同士での情報共有を促すために、SNS など共有したくなるような工夫が必要である。
- ・横浜市のようなデジタルプラットフォームを用意してもらいそこから情報入手できるようにする。
- ・市政に関する情報のトレンドなど興味が高まるように情報を提供する。



## 【市民のやるべきこと】

### ●市民の意識を高める

- ・行政からの情報を入手したら、自分ごととして考え市政への参加を意識することが重要である。
- ・そのことにより情報に対して意識が高まる。

### ●様々な方法で情報を入手する

- ・人づてで情報を受け取る。
- ・町内会の回覧板で情報を受け取る
- ・まちづくりセンターや子育て支援センターなどの交流の場で情報を受け取る。

### ●情報の正確性の確認

- ・それぞれが自分自身にあった方法で情報を受け取ることが重要である。
- ・受け取った情報が正確な情報なのか、市民自身で判断することが必要である。
- ・SNSなどで情報を発信する際は、その情報が正しい情報なのか留意する必要がある。

## ②様々な情報をどのように伝えるか

### 【行政がやるべきこと】

#### ●多様な方法で市民に情報を届ける

- ・SNS やテレビなどのマスメディア、町内会などの地域コミュニティとの連携、小規模な集まりの場（ワークショップ）を設けるなどし、多様な方法で市民に情報を届ける。
- ・個人宛に情報を郵送する。

#### ●市民が情報を受け取りやすくする工夫

- ・議会などは市民など傍聴しやすい時間に行うなどの配慮をする。
- ・市民が知りたい情報を発信する。
- ・市民が興味を持つように情報を発信する。
- ・市民にわかりやすく情報を発信する。
- ・市民に当事者意識を持ってもらう工夫をする。
- ・病院で医療助成に関する情報を発信するなど、場所と情報を関連付ける。

#### ●市民が情報を正しく受け取るための支援

- ・市民が情報リテラシーを学べる場を設ける。
- ・市民がデジタルツールの利用方法を学べる場を設ける。

#### ●市民とのやりとりの場を設ける

- ・市民が情報に疑問を持った時に対応する窓口などを設ける。
- ・ワークショップやオープンハウスなど市と市民が情報をやりとりできる場を設ける。

**【市民がやるべきこと】**

●行政情報に対して意識を高める

- ・市政に関して自分ごととして意識を高め、多様な行政情報を入手することが重要である。

●情報の正確性の確認

- ・多様な方法で情報を入手し、その情報の正確性について判断することが重要である。

●地域コミュニティから情報を受け取る

- ・SNSなどの利用が不得手な市民は、町内会の回覧板をよく確認したり、民生委員などと連携するなどし、地域コミュニティから情報を入手することが必要である。

## 2) ワークショップ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ● 市政への参加の重要性の周知

- ・ 市政に参加する必要性と参加した場合の結果を事例なども用いて周知することで市政への参加の重要性を広く市民に知ってもらうことが必要である。

### ● 市政への参加の方法の周知

- ・ 市政にどのように意見を届ければよいのか、その方法などを周知することが重要である。

### ● デジタルツールを用いた市民への参加

- ・ vTaiwan のようなデジタルプラットフォームを利用し、意見交換を行うことができるようにすることが必要である。
- ・ 二次元バーコードを入口にしたデジタルツールを用いることで、意見交換の場に参加する市民を増やしていくとよい。
- ・ 最新の市政の情報を受け取れるとよい。
- ・ SNS などでも意見交換ができるようにする

### ● 対面での市政への参加

- ・ 市民同士での意見交換できる場が重要である。
- ・ 社内や家庭といった身近な場から意見交換ができるとよい。
- ・ 多様な人が参加できるワークショップやオープンハウスといった機会が数多くあるとよい。

### ● 議員が主導する市政への参加

- ・ 議員が市民の意見を収集し、それを市政に反映させることが重要である。
- ・ 議員が市民を対象に勉強会やワークショップを開催し、市民の意見を聞く機会を設けるとよい。

### ● 市政に参加しやすくする

- ・ ワークショップでは、リモートでも参加できるようにし、かつ顔出しなども自由に選択できるようにすることで参加しやすくなる。
- ・ 企業は、社員がなんらかの方法で市政に参加する際は、それに配慮することが大切である。
- ・ 行政は、市民の興味を惹くテーマを設定し、提供する情報は視覚的にわかりやすいようにするなどの工夫をする。
- ・ 健康体操などのイベントの後に、市政への意見を集める機会をつくるなどする。
- ・ 区役所や商業施設などに、いつでも市に意見することができる窓口や意見を投函できる箱を設置する。
- ・ 子どものころから、市政に参加し、それがあたりまえになるようにする。

- ・ワークショップやオープンハウスなどは、身近なテーマを設定することで参加しやすくなる。
  
- 市政に参加することのメリットをつくる
  - ・ 市政に参加することでポイントが付与されるとよい。
  - ・ 学生が市政に参加した場合、就職活動などで用いることができる証明書のようなものを発行するとよい。
  
- 市民からの意見や疑問などに対して市が回答する
  - ・ 市民の市政への参加意欲を高めるためには、市民からの意見や市政参加の結果によって市政が変化したことを感じてもらうことが重要である。
  - ・ すべての意見が反映されるわけではないことから、市は意見を反映してもしなくても、意見に対する回答を行い、庁内で検討していることなどがわかるようにする必要がある。
  - ・ 市民の市政に対する疑問を解消するために、情報を提供する場合には、問い合わせ窓口などを記載する。
  
- 多様な市政への参加の方法の周知
  - ・ 市政への参加の方法として、上記以外にも、住民投票やパブリックコメント、アンケート、出前講座の活用など多様な参加の仕方があることを周知することが必要である。
  - ・ 特にアンケートについては、どんな人がどのような回答をしているのかがわかるようにする必要がある。

### 3. グループごとの意見の概要

#### (1) Aグループの意見の概要

テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

##### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

###### ●行政

- ・情報を届ける際には、世代や属性に合わせた配信方法の工夫が必要。
- ・ターゲットとする世代には、学校や町内会などの組織を通じて確実に情報を届けることが効果的。
- ・例えば、子育て情報は学校で、高齢者関連の情報は町内会で配布する。
- ・高齢者は紙の情報が見やすいので、対象によって配布ツールを変えるべき。
- ・テレビのDボタン機能を活用して、札幌市の情報を手軽に得られるようにし、常に最新情報を提供することで関心を持続させる。

###### ●市民

- ・市民には人づての情報提供も効果的であり、特に外出が困難な高齢者に対しては、見守り活動をしている民生委員が直接情報を伝え、理解を深めてもらう方法が必要である。

##### ②様々な情報をどのように伝えるか

###### ●行政

- ・情報伝達のために、行政はTV、SNS、コミュニティなどを通じて市政情報を伝えるべきである。
- ・例えば、病院での待ち時間に医療助成に関する情報を提供するなど、市民が必要な情報をタイムリーに得られることが重要。札幌市の公式SNSの利用や、小規模な集まりでの直接的な情報提供も有効。

###### ●市民

- ・市民側では、情報リテラシーの向上が必要であり、様々な情報源から正しい情報を得られるように、情報の捉え方を柔軟にする必要がある。

##### ③考えを深めるためにどのようにすればいいのか

###### ●行政

- ・深い考えを促すためには、行政がより深い情報を提供する場を設け、カジュアルで気軽に情報を得られる環境を作ることが重要。例えば、スーパーでの買い物中に気軽に話せるような勉強会や、市に意見をいつでも提出できる窓口を設けること。
- ・また、意見が集まれば議論に上げられる台湾のシステムを参考にすることが提案されている。

## 2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ●市政への参加の重要性の発信

- ・市民が支払った税金が有効に使われていることを意識し、市政への参加の重要性を理解してもらうための政策を提示。

### ●意見交換の機会

- ・市民同士で意見を交換できる場の設置が有用。他人が自分の意見に耳を傾け、共感してくれる環境が市民にとって重要。
- ・若者向けには、インターネットサイトやSNSなどのデジタルプラットフォームを用いて意見交換を促す。ポイント制度の導入や視覚的に理解しやすいイラストの使用が、若者の参加を促す。
- ・対面での意見交換も重要であり、商業施設やコンビニなどで市政情報を提供すること、オープンハウスのような公開ディスカッションの場を設けることが提案されている。
- ・家族や職場、友人との間で市政が話題に上るよう、アプリを通じた情報提供や企業の社員教育、学校や職場での議論を促進する。
- ・若者が意見を出しやすくするための工夫が必要であり、活気ある都市づくりには若者の意見が重要。
- ・議員さんが勉強会やワークショップをひらいて聞いてもらい、そこで話されたことをきちんと市へ伝えてもらうことも必要である

### ●意見を市に伝える仕組み

- ・議員が市民の意見を収集し、反映させる役割を担う。
- ・意見箱の設置や議員の関わりを強化することで市政への参加を促進する。
- ・市民がいつでも市に意見を述べることができる窓口

## (2) Bグループの意見の概要

### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

#### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

##### ●行政

- ・広報無線を設置し活用する。
- ・個人に向けて情報を届けるために、スピーカーを取り付けたドローンを活用する。
- ・LINE や Instagram といった手軽にアクセス可能なソーシャルメディアを通じて情報を配信する。
- ・写真を含む情報の視認性を高めるために、LINE や Instagram のような視覚的なメディアを利用する。
- ・情報を整理し、個々の関心やニーズに合わせて一目で理解できるようにする。
- ・一人暮らしの人、子育て世代、高齢者などターゲットを明確にし、それぞれに合った情報発信を行う。
- ・広報と広告の区別を明確にし、広報は情報提供、広告は関心を喚起し問い合わせ先などの情報提供を行うためのものとし、それぞれの役割に応じた情報発信を行う

##### ●市民

- ・当事者意識、自分ごととして意識することが重要である

#### ②様々な情報をどのように届けるのか

##### ●行政

- ・議会は市民が情報を得る機会でもあることから市民が参加しやすい時期に開催する
- ・知ってほしい情報だけでなく、市民が知りたい情報も発信することが必要である
- ・その施策などを実施して将来どうなるのかといった内容も含めて情報を発信することで、市民に当事者意識が生まれるようにする。

##### ●市民

- ・当事者意識、自分ごととして意識することが重要である
- ・信頼できる人が発信した情報だからと言って信頼できる情報とは限らないことを認識して注意することが必要である。

#### ③市民が考えを深めるために

##### ●市民

- ・習いごとなどの他者と交流する際に話題にし、話し合うことが大切である
- ・困りごとについて、さまざまな人と話し合うようにする
- ・話し合うことは、その中で新たな興味などがわくことがあるため重要である
- ・自分で情報の正確性を確かめる

## 2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ●意見交換の機会

- ・市政に参加する市民を以下の4種類に分類し、それぞれに気軽に交流できる場の設置が有用と考えられる。市は、どの分類の人が多いかを把握することも重要である。

興味があり、知りたい人

伝えたい人

提案したい人

変えたい人

### ●意見に対する市からの回答

- ・市政に参加する意欲を促すためには、市から市民へのフィードバックの提供が必要であり、市政に関与している実感や、意見が反映されない場合の説明が参加意欲を引き出す。

### ●日常的に意見を届ける

- ・市政に意見が届いていることを感じられることも参加意欲を促進する。ワークショップの開催や日常的に意見を届けることが必要である。

### ●参加の方法の周知

- ・市政への参加方法を市民が十分に知らないことが問題であり、参加方法の周知が必要である。

### ●その他

- ・市民が制度を創る仕組みがあれば、参加意欲と責任感が生まれると考えられる。例えば、学校で余った給食を再配分するなどの新しい取り組みがあげられる。
- ・市政が届かない意見や情報は、メディアを通じて届ける方法や市民が自ら調べる必要がある。
- ・住んでいる区や働いている区にかかわらず、市政情報を得て意見を届ける仕組みが必要である。



### (3) Cグループの意見の概要

#### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

##### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

###### ●行政

- ・市政への参加を促すためのワークショップを定期的で開催し、市民に自ら考えるきっかけを提供する。
- ・市政に対する無関心を解消するために、様々な層を対象としたワークショップを増やす。
- ・伝える情報については、ターゲットを絞り込むことが重要であり、異なる年代ごとに適したSNSの使い分けを行うべき。
- ・例として、若者にはInstagram、働く世代にはLINEやFacebookを使用する。
- ・地域のまちづくりセンターの利用を推進し、その活用方法を広報する。
- ・専門職の意見を聞くために、ワークショップに介護職などの専門家を招くこと。

###### ●市民

- ・自分に関連する情報は積極的に入手する。
- ・町内会を重視し、回覧板を通じて情報を共有する。
- ・交流の場としてまちづくりセンターを有効活用することが重要である

##### ②様々な情報をどのように届けるのか

###### ●行政

- ・情報リテラシーの教育を進めていくべきである。
- ・札幌市のホームページも、情報を探しにくいと感じている。
- ・説明会の開催を増やすと良いが、説明自体のわかりやすさも求められる。

###### ●市民

- ・情報源を1つにせず、複数のメディアを参照できると良い。

##### ③考えを深めるためにどのようにすればいいのか

###### ●行政

- ・「多数が正解」ということではないので、少数の意見も必要である。

###### ●市民

- ・意見交換会などに参加して、様々な意見に耳を傾けることが必要である。

## 2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ●忙しい方の参加のための提案

- ・リモート参加の機会を提供する。
- ・企業において市政参加のための時間の配慮を依頼する。
- ・市政参加を楽しいものに見せるイメージづくりと興味を惹くテーマの設定が必要である。

### ●フィードバックが必要

- ・いつでもどこでも意見を提出できるプラットフォームの存在が望ましい。
- ・提出された意見に対する結果が可視化されることが望ましい

### ●参加の窓口（デジタル）

- ・vTaiwanのようなデジタルプラットフォームの導入が望ましい。
- ・その場合、提供される情報の信憑性を確保する必要がある。

### ●参加の窓口（リアル）

- ・オープンハウスを窓口として活用する。
- ・カフェなどの気軽な場所で市政参加ができるようにする。

### ●参加を促進するためのインセンティブ

- ・参加のメリットとして、例えば黄色いゴミ袋などの物品を提供する。
- ・学生の就職活動に市政参加がプラスに働くようにする。
- ・意見交換が行いやすい場所を提供し、そこに行く習慣をつくる。

### ●市政に関心を持ってもらうために

- ・海外や日本の情勢を把握しやすくすることで、市民の関心を引きつける。
- ・学生が市議や公務員の勉強会に参加できるようにし、人材育成につなげる。
- ・自分の意見で何かが変わったという実感を市民に持たせる。
- ・家族で政策についての考えを共有すること。
- ・グローバル化を進めるための取り組みも必要。

#### (4) Dグループの意見の概要

##### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

###### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

###### ●行政

- ・広報さっぽろで情報収集をしているが、時間がなくて見られないことが多い
- ・Web サイトから情報を得るようにしているが、情報量が多く、欲しい情報になかなか辿り着けないこともある
- ・広報や SNS などの媒体で市民に届きやすい情報提供が必要である

###### ●市民

- ・自分に合った情報収集の手段を検討し、入手をすることが重要である
- ・正確な情報入手するためにできるだけ多くの情報源に当たって、その情報が正しいものか判断することが大切である
- ・個人が SNS で地域に関わる情報を発信する際に、できるだけ誤解を生まないような正確な発信を心がける

###### ②様々な情報をどのように届けるのか

###### ●行政

- ・多くの人に興味を持たせるような情報発信をする
- ・若い世代は、行政で配信している LINE 公式アカウントを活用している
- ・情報のデジタル化が進んでいるが、全ての年代の人が使えるわけではないので、新聞など紙媒体も必要である。
- ・行政が主体となりスマートフォンなどのデジタル化研修を行う

###### ●市民

- ・インスタグラムや Web サイト、SNS などの発信媒体で行政と市民が協力して情報入手を行う
- ・市の公式 LINE を見るようにする

###### ③考えを深めるためにどのようにすればいいのか

###### ●行政

- ・ワークショップやイベントの実施に当たっては有識者を招き考えてもらう。
- ・若い人との交流の場をつくり情報交換してもらうことが重要である
- ・台湾の事例でもあったような「v Taiwan」のようなものを活用する

###### ●市民

- ・流れてくる情報だけではなく一次情報を調べて考えを深めることが重要である
- ・二次情報だけでなく公式の情報にあたっていくことが大切である

## 2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ●行政の情報の提供

- ・市政参加の利点と可能性を市民に広く伝えることの重要である
- ・市民が参加できる機会についての情報を行政が提供し、積極的な公募を行うことが必要である
- ・Web や SNS を利用した意見投稿が行えるようにする
- ・Web アンケートを活用する。
- ・行政が SNS を得意とする若年層との連携を深める情報発信を行う
- ・ワークショップイベントを開催する
- ・興味や関心事を共有し、身近なテーマで議論の場を設ける。

### ●イベント、ワークショップ、会議を開催する

- ・ワークショップや議論の機会を増やし、例えば年金問題など、あらゆる世代が関心を持ちやすいテーマでイベントを実施する。
- ・町内会の会議や交流会に住民が参加する機会を提供する。
- ・Zoom などを利用して問題発表会を行う。
- ・地域活動への参加を促し、多世代間のつながりを深める。
- ・OB 会などの集まりや自治会での議論の場を設ける。

### ●市政への参加を深める

- ・地域のまちづくりセンターやサロンで行政担当者を招いて会議を行う。
- ・オープンハウスやパブリックコメントの実施を通じて、広く意見を集める。
- ・住民投票などで多くの意見を集約する。

## (5) Eグループの意見の概要

### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

#### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

##### ●行政

- ・動画などを用いて、デジタルツールでの情報発信を進める。
- ・若者や子育て世代、高齢者などの幅広い世代や属性に情報を届けるために、広報誌やマスメディアなどの多様な情報発信を実施する。

##### ●市民

- ・子育て世代は、子育て支援センターから情報を得ている。
- ・テレビやラジオのニュース、また、動画で情報を受け取っている。

#### ②様々な情報をどのように届けるか

##### ●行政

- ・世代や情報を届けたい対象を定め、それに適した情報発信を実施する。
- ・SNSなども含め、多様な情報発信の方法を用意する。
- ・高齢者などにデジタルツールの利用のための支援を行うなどし、市民が多様な方法で情報を獲得できるようにする。

##### ●市民

- ・興味が薄いことや問題意識がない人もいることから、市政の情報を積極的に獲得することをしない人も多いことが考えられるため、マスメディアなどの普段よく目にする媒体から情報を獲得できるようにする。
- ・横浜市のようなデジタルプラットフォームがあると情報を獲得しやすい。また、その中で情報を雪や財政といったような分野別にすることでより情報を取得しやすい。
- ・閲覧数などから、市政に関する情報のトレンドがわかるようになると若い世代の関心を惹くが出来るのではないかと。
- ・デジタルツールの利用が難しい人に対しては、回覧板の利用や民生委員と協力し、地域コミュニティが情報を届ける必要がある。

#### ③考えを深めるためにどのようにすればいいのか。

##### ●行政

- ・世代ごとにあつたデジタルツールでの発信をする。
- ・デジタルプラットフォームを活用しつつ、その中で市民がどんな情報が欲しいのかといったニーズも把握する。また、ゲーム性を取り入れるなどし、ユーザーが楽しんで参加できる工夫が必要である。
- ・デジタルツールの利用が難しい人をサポートする必要がある。
- ・デジタルツールを活用することに加え、対面での意見交換の場なども重要である。

##### ●市民

- ・対面での意見交換の場に参加し、考えを深める。
- ・デジタルプラットフォームによる意見交換に参加する。

## 2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ●デジタルプラットフォームの普及と活用

- ・デジタルプラットフォームは、どこにいても参加できる点がよい。
- ・市政に関する速報やアンケートの結果などをすぐに確認できるとよい。
- ・二次元バーコードを用いた普及やアプリなどに広告をだす。
- ・民間企業などとも連携し、値引きや公共施設で使えるポイントの付与など、デジタルプラットフォームに登録することによるメリットを生む。
- ・「みんなのお財布（財政情報）を考える」「消滅可能性都市を考える」などのテーマを設け、施策と財務状況をあわせて考える。
- ・人口減少に伴う行政サービスの縮小などといった事実を伝え、それを踏まえ、どうしていくことができるのかの意見交換ができるとよい。

### ●デジタルツールの利用以外の気軽な市政への参加

- ・区役所や商業施設などの市民が普段から利用する場所に目安箱を設置し、どこでも市政に意見をすることができる環境を創出する。

## (6) Fグループの意見の概要

### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

#### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

##### ●行政

- ・広報さっぽろなどの無料で獲得できる媒体を活用する。
- ・普段から利用する電車やバスなどの公共交通で情報発信を行う。
- ・SNSを活用する。
- ・個人宛に直接情報を提供する。
- ・ラジオやテレビCM、新聞紙面記事などのマスメディアを活用する。
- ・地下歩行空間や大型ショッピングモールなどでオープンハウスを実施する。また、その数を増やしていき、オープンハウスの広報を行う。
- ・民間企業の展示ブースや掲示板を活用する。

##### ●市民

- ・町内会への全員参加し、合わせて地域の回覧板を見るようにする。
- ・「詳細はWebで！」はWeb環境のない市民には情報が届かない。
- ・「どこから情報を受け取れるのか」という情報を知ることが必要である。

#### ②様々な情報をどのように届けるのか

##### ●行政

- ・SNSや広報記事などのさまざまな方法でお知らせすることでたくさんの人の目にふれようにする。
- ・個人宛に直接情報を提供する。
- ・dボタンなどのテレビの機能の活用を進める。
- ・想定される疑問に対する回答も発信する。
- ・電話やSNSを活用して、市民が疑問に思ったことを確認できるようにする。
- ・広報さっぽろの区ごとの情報ページで、その区に関わる情報の詳細をお知らせする。
- ・市民と対話できるようなオープンハウスやワークショップなどを実施して、相互のやりとりを行う。
- ・気軽に参加できる環境を増やす。
- ・子どもも含め多くの市民に情報が届くように、アニメのキャラクターを使用したポスターや文字の少ないチラシの作成を行う。

#### ③考えを深めるためにどのようにすればいいのか

##### ●行政

- ・市政に関するメリットだけでなく、デメリットについても情報提供する。
- ・デジタルツールやアンケート、窓口などを設置し、市民の意見や要望を伝えることが出来るようする。また、抽選でのプレゼントなどを用意し、参加意欲を高める。
- ・市民からの意見を踏まえ、テーマを設定してアンケートやオープンハウスを実施する。

●市民

- ・行政と市民、市民同士が話し合う場に積極的に参加する。また、その中で自身の意見を発言するだけでなく、他人の意見を聞き、その意見を知ることが重要である。

2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

●市民自治の必要性を伝える

- ・市民が市政に参加する必要性やその結果を事例などで伝える。
- ・市民が市政に参加していない場合、どのようなことになってしまうのかについても伝える。

●市民の疑問を解消する

- ・区役所などに市政に関する問い合わせ窓口を設置する。
- ・各市政への疑問を解消するための連絡先がわかるように情報を提供する。

●ワークショップを開催する

- ・参加のハードルを下げるような工夫をする。
- ・WEB 会議ツールを用いるのに加え、顔出しを任意にするなどし、気軽に参加できるようなワークショップを開催する。
- ・健康体操などのイベントにあわせて、ワークショップを開催する。
- ・企業も参加するなどさせ、さまざまな立場の人が集まるワークショップを開催する。

●リーダーを育成する

- ・若者代表や主婦代表といったリーダーをつくる必要がある。
- ・リーダーには報酬も支払い、責任感などを持ってもらう。

●アンケートを実施する

- ・世代や立場ごとに設問を提示してアンケートを行う。
- ・世代や立場を踏まえ、一番回答しやすい方法を考慮しつつ、さまざま方法を用意する。



## (7) Gグループの意見の概要

### 1) テーマ1：市民が市政に関する情報を得て理解を深めるために

#### ①情報が届いていない人にどのように届けるか

##### ●行政

- ・市や市政に関心を持ってもらえるように、札幌市を映画の舞台にする。
- ・熊などの危険情報といった元々市民の関心の高い情報とあわせて、情報を発信する。
- ・メリットとデメリットをあわせて情報提供する。
- ・わかりやすさを優先して情報提供する。
- ・SNSなどで見せたいくなるような、それを共有したくなるような情報を発信する。
- ・市民に響くような情報発信をする。

##### ●市民

- ・獲得していない情報の必要性がわからない。
- ・情報が届いていない人に、情報を届けるのは困難である。
- ・市民も自身の興味を広げることが意識することが大切である。
- ・獲得した情報を誰かに共有する工夫や直接人に伝えるなど、市民同士での情報共有が必要である。

#### ②様々な情報をどのように届けるのか

##### ●行政

- ・災害などの非常時にしっかりと情報を届け、必要な情報を発信していることを知ってもらう。
- ・わかりやすさを優先した情報提供が必要である。
- ・無関心な市民には、動画や広報誌などを用いて情報を届ける。
- ・情報とその情報について関心を持ってもらうためのものをセットで届ける。

##### ●市民

- ・郵送できたものやテレビなどは確認している。
- ・市民同士の小グループ内であれば、情報共有していくことができる。
- ・マンションに住んでいても町内会に入ることが情報を獲得するために重要である。
- ・直接での声掛けやチラシの配布などで共有する。

#### ③考えを深めるためにどのようにすればいいか

##### ●行政

- ・市民に市政についての考えが深まらなかった時のデメリットを伝える。
- ・アンケートなどで行政と市民が双方向に意見交換する。

##### ●市民

- ・苦情ではなく、提案する。
- ・アンケートなどで行政と市民が双方向に意見交換する。

## 2) テーマ2：誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために

### ●若い世代の参加を促す

- ・高校生などのうちから、市政に意見する場に参加できるようにし、それがあたりまえにする。
- ・タレントの起用や報酬などを用意することで、興味関心を惹く。

### ●双方向の意見交換をする

- ・アンケートなどでは、市民からの意見に市が回答する。
- ・意見交換会などでは、実施日や実施回数、オンラインなどの参加形態に配慮して、参加しやすい工夫をする必要がある。
- ・地域の話のその地域で集まって話し合いたい。

### ●提案をする

- ・市民は苦情ではなく、要望や提案を市に行う。意見した人を匿名にしないなどすることで、苦情ではなく、要望や提案をする人が増えるのではないか。

### ●アンケートなどの実施方法

- ・行政は設問を必要最低限にしつつ、報酬などを用意し、市民が回答しやすく、回答したくなるようにする。
- ・郵送でアンケートが届いたほうがWEBよりも回答する。
- ・地域ごとなど狭い範囲でアンケートを実施し、その地域の特徴を把握できるようにしてほしい。
- ・行政の思惑のみえるアンケートには回答したくない。
- ・課題に合わせて、それにあった対象にアンケートを配布することが大事である。

### ●出前講座

- ・どのようにすれば、出前講座を実施することができるのかといった情報が必要である。
- ・テーマ別を実施することができるのがよい。
- ・場所や参加者をあまり選ばない点が魅力である。

## 第4章 参加者アンケート

### 1. アンケート実施概要

本アンケートは、参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、次年度以降のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

- ・調査対象 : 「市民自治を考える市民ワークショップ」参加者
- ・配布・回収方法 : ワークショップ当日（令和6年2月23日）に配布・回収
- ・回収数 : 41名

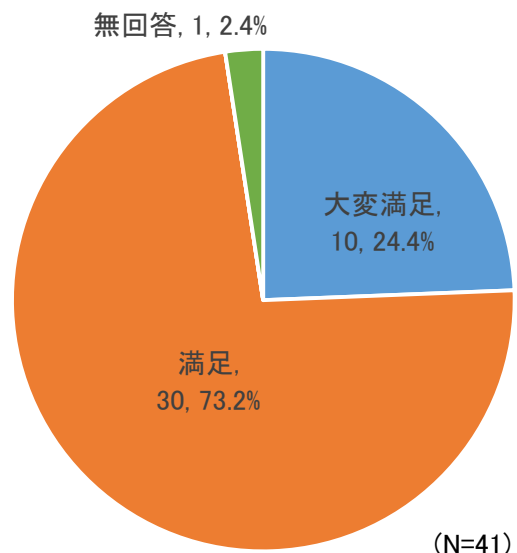
### 2. アンケートの質問項目と結果

#### 【質問1】「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

##### (1) 参加した感想（ひとつに〇）

「大変満足」が約2割超え、「満足」が約7割超えという結果となった。

選択肢	回答数	割合
大変満足	10	24.4%
満足	30	73.2%
不満足	0	0.0%
大変不満足	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.4%
合計	41	100.0%

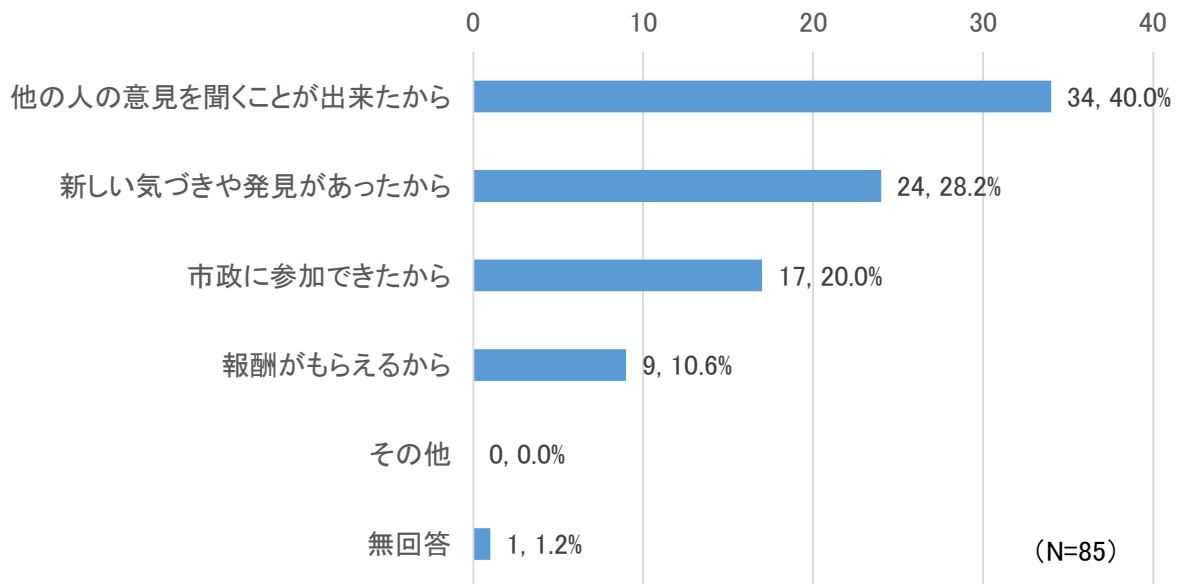


(2) (1) で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「他の人の意見を聞くことができたから」との回答が 34 名と最も多かった。次いで「新しい気づきがあったから」との回答が 24 名であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見を聞くことができたから	34	40.0%
新しい気づきや発見があったから	24	28.2%
市政に参加できたから	17	20.0%
報酬がもらえるから	9	10.6%
その他	0	0.0%
無回答	1	1.2%
合計	85	100.0%

※ (1) で「①大変満足」「②満足」と回答していない方の回答を含む



(3) (1) で「③不満足」「④大変不満足」と回答した理由（複数回答）

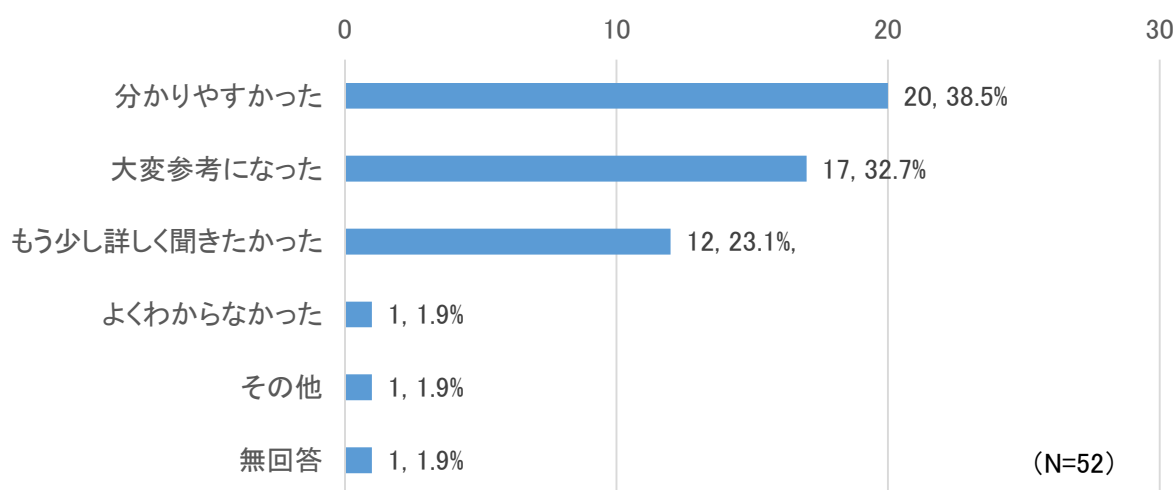
※該当者なし

## 【質問 2】 情報提供について

(1) 市民自治に関する基礎情報や、先進事例の紹介などの情報提供について（複数回答）

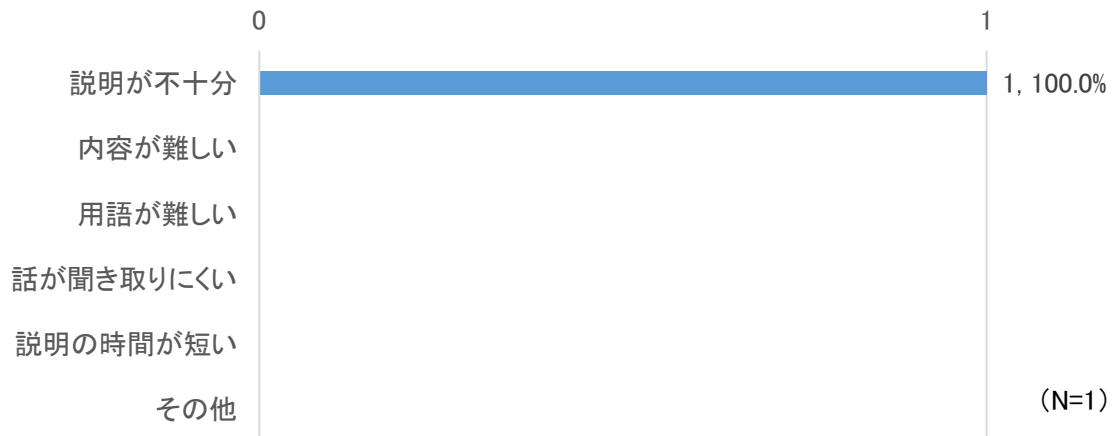
「分かりやすかった」が最も多く 20 名、「大変参考になった」が次いで 17 名、「もう少し詳しく聞きたかった」が 12 名であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	20	38.5%
大変参考になった	17	32.7%
もう少し詳しく聞きたかった	12	23.1%
よくわからなかった	1	1.9%
その他	1	1.9%
無回答	1	1.9%
合計	52	100.0%



(2) (1) で「よくわからなかった」と回答した理由（複数回答）

選択肢	回答数	割合
説明が不十分	1	100.0%
内容が難しい	0	0.0%
用語が難しい	0	0.0%
話が聞き取りにくい	0	0.0%
説明の時間が短い	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	1	100.0%

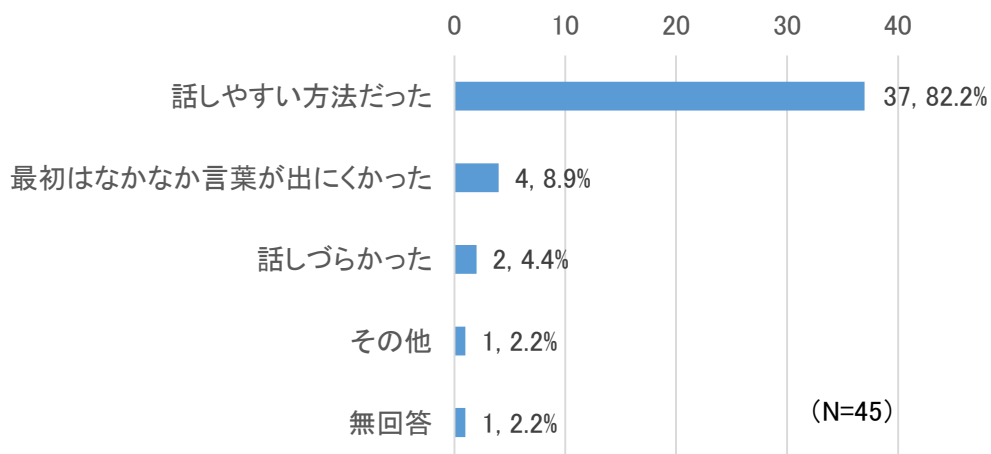


### 【質問3】話し合いについて

#### (1) 話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」と回答した人は8割以上であった。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	37	82.2%
最初はなかなか言葉が出にくかった	4	8.9%
話しづらかった	2	4.4%
その他	1	2.2%
無回答	1	2.2%
合計	34	100.0%



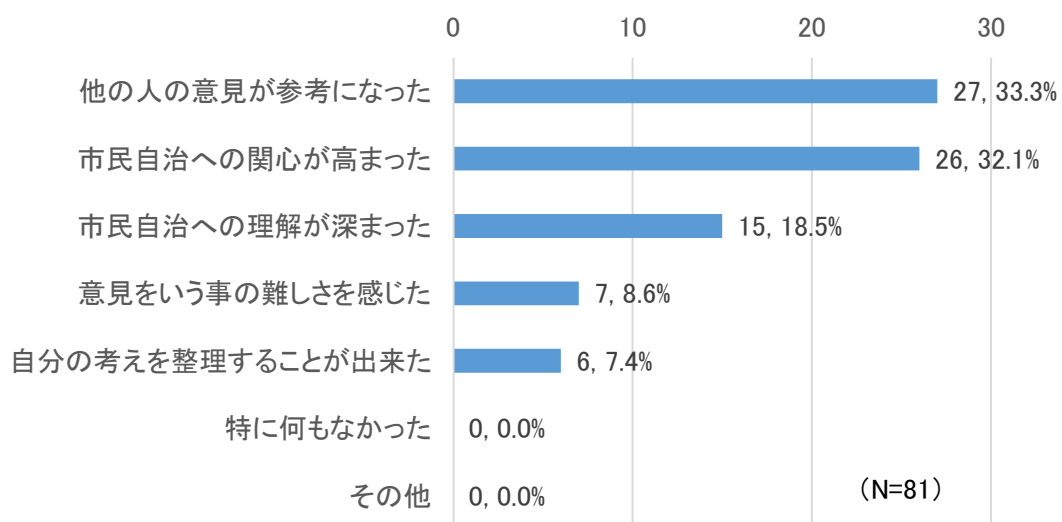
#### (2) (1) で「話しづらかった」と回答した理由（複数回答）

※該当者なし

**【質問4】 参加して得たものについて（複数回答）**

「他の人の意見が参考になった」と回答した人は 27 名、「市民自治への関心が高まった」と回答した人は 26 名であった。

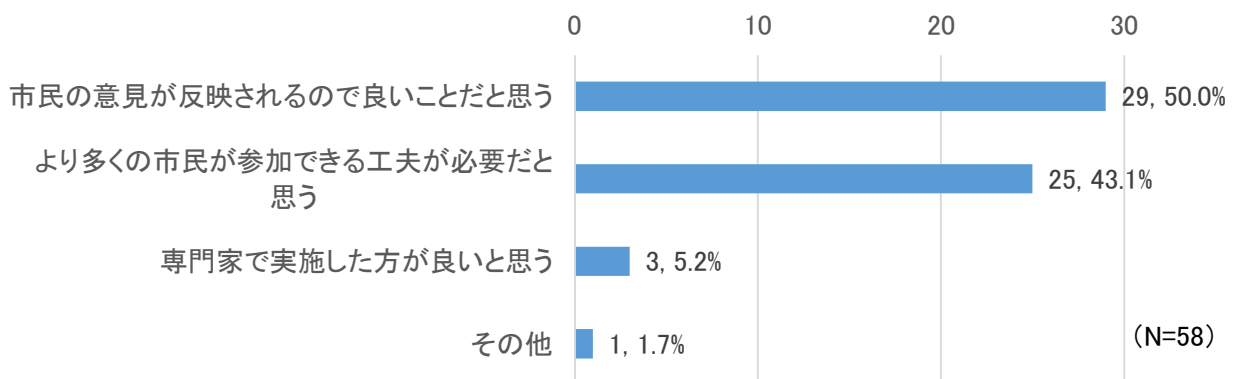
選択肢	回答数	割合
他の人の意見が参考になった	27	33.3%
市民自治への関心が高まった	26	32.1%
市民自治への理解が深まった	15	18.5%
意見をいう事の難しさを感じた	7	8.6%
自分の考えを整理することができた	6	7.4%
特に何もなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	81	100.0%



**【質問5】ワークショップの実施について（複数回答）**

「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が最も多く 29 件、次いで「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が 25 件であった。

選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	29	50.0%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	25	43.1%
専門家で実施した方が良いと思う	3	5.2%
その他	1	1.7%
合計	58	100.0%



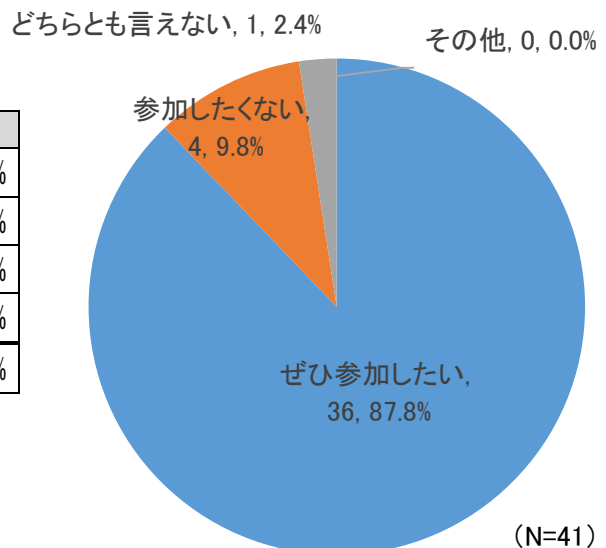
※その他の具体的な回答

・学生さん、主婦、各職業の方のワークショップがあると良いと思います。

**【質問6】今後このような取組の参加について（ひとつに〇）**

今後もこのような取り組みに「ぜひ参加したい」と9割近くの参加者が回答した。

選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	39	87.8%
参加したくない	4	9.8%
どちらとも言えない	1	2.4%
その他	0	0.0%
合計	34	100.0%





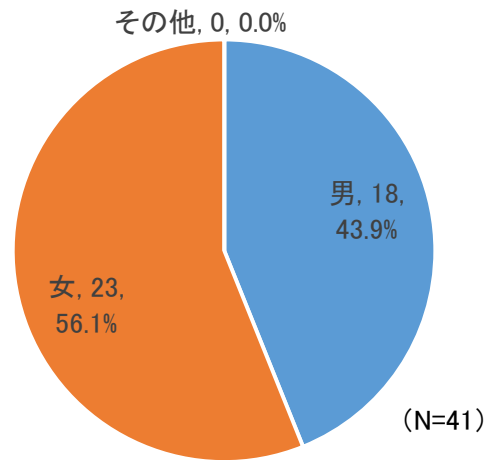
## ※回答理由

- ・勉強になるから。
- ・大変勉強になり、市民自治について少し理解できたから。また、他の人の考えも知りたい。
- ・より興味を持った。オープンハウスへ参加したいと思った。
- ・市民として参加したいと思った。
- ・他の方の考えがきけた為
- ・市の取り組みを直接見聞きでき、市民に優しい機会だったため。
- ・自分の発想が深まるから
- ・自分の興味がある事以外にも大切な情報や知識を得ることができたり、参考になる話がい  
ろんな人から聞けて大変勉強になりました。
- ・ワークショップは意味がある 問題はその成果の反映の方法、扱いの方法も含めてプロセ  
スを公開すべき
- ・札幌市が好きだから。
- ・市政に参加する意識を高める→快適な生活を築く（市政）
- ・普段考えていなかった事を考える機会になったので
- ・普段経験できない経験ができたから。
- ・様々な意見が聞ける

【質問 7】 回答者さま自身について

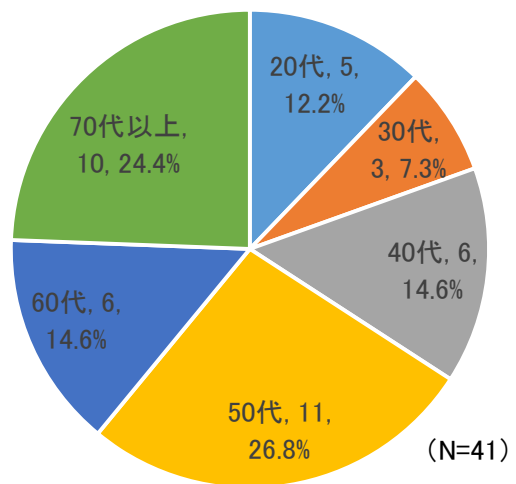
(1) 性別

選択肢	回答数	割合
男	18	43.9%
女	23	56.1%
その他	0	0.0%
合計	41	100.0%



(2) 年代

選択肢	回答数	割合
20代	5	12.2%
30代	3	7.3%
40代	6	14.6%
50代	11	26.8%
60代	6	14.6%
70代	10	24.4%
合計	41	100.0%



## 【質問8】自由回答

41名中12名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

- ・ 勉強になりました。
- ・ 大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・ グループファシリテーターの方、ありがとうございました。ファシってました。
- ・ 機会を増やしてほしいと思いました。
- ・ 他の市民の方の考え方を知ることができてよかったと感じた。ワークショップの開催する意義はあると感じた。今後も継続してほしいと思った。
- ・ 年代別の参加が有っていいと思います。(特に若い人がいなかったのので)参加はむずかしいと思うけど工夫してください
- ・ 今回市民2千人程度に参加を募ったと聞きましたが、とても有意義な催しだと思うのでもっと人数を増やしたり、会場を区ごとに設けたりして市政に関心や興味を持てる機会が増えるとよりよくなると思いました。
- ・ 年に数回、定期的開催していただきたいです。
- ・ 貴重な経験になりました。ありがとうございました。
- ・ 初めての参加でしたが、話しやすい雰囲気だったので、楽しく考える時間でした。
- ・ 高校、大学でも行ったらどうでしょう？
- ・ 各グループにファシリテーターがついているので、議論がスムーズになるのが良かったです。会の時間もゆったりしていたので、深い意見が出せる環境が整っていたと思います。

### 3. 参加者アンケート結果のまとめ

#### (1) ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」と回答した人が 40 名 (97.6%) となった。その理由としては、「他の人の意見を聞く事ができたから」が 34 名 (40.0%) と多く、次いで「新しい気づきがあったから」が 24 名 (28.2%) であった。

また、話し合いの方法については「話しやすい方法だった」という回答が 37 名 (82.2%) いた。一方で、4 名 (8.9%) の方が、「最初はなかなか言葉が出にくかった」という回答をしていた。

#### (2) 情報提供について

情報提供については、「大変参考になった」が 17 名 (32.7%)、「分かりやすかった」が 20 名 (38.5%) と多かったが、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も 12 名 (23.1%) あった。

#### (3) ワークショップについて

ワークショップを実施することについて、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」という回答が 29 名 (50.0%) と多かった。一方「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が 25 名 (43.1%) あり、開催方法や頻度について工夫する余地があると考えられる。

今後の参加意向は 39 名 (87.8%) と高かった。回答理由では、「普段考えていなかったことを考えることが出来た」や「勉強できた」といった理由、「他の人の考えを聞くことができたから」といった理由がみられた。

また、参加して得たものについても、「他の人の意見が参考になった」が 27 名 (33.3%) と多く、一つのテーマについて世代を超え議論することにより、多様な意見に触れることができた参加者が多かったものと考えられる。また、「市民自治への理解が深まった」が 15 名 (18.5%)、「市民自治への関心が高まった」が 26 名 (32.1%) と多かったことから、このワークショップが、市民自治を考えるきっかけにつながったことが伺える。

## 5章 ワークショップの考察

本業務のワークショップでは、大きく2つのテーマにして議論を行った。

1つ目は、市政に関する情報を正しく市民に伝えるため方法やアイデアを出してもらうために、「市民が必要な情報を得て、市政に関する考えを深めるために」というテーマでワークショップを行った。

2つ目は、市民の意見を行政に届ける方法やアイデア、市政への参加のあり方について意見を出してもらうために、「誰もがあらゆる方法で市政への参加ができるようにするために」というテーマでワークショップを実施した。

参加者から出された意見をもとに、市政に関する情報を正しく市民に伝える方法と市民の意見を行政に届ける方法と市政への参加のあり方を整理する。

### 1. 市政に関する情報を正しく市民に伝えるため方法

ワークショップでの意見交換を通じて、「市政情報を見る機会はほとんどない」といった意見や「市政の情報を見ることはあっても、自分とどのような関係があるかがわからない」といった意見が出された。市民に市政に関する情報が届いていない場合があること、届いていても市民に当事者意識がなく、情報を受け取って終わってしまう場合があることがわかった。また、個人が SNS など発信できるようになったことも影響し、二次情報が拡散されてしまうことにより、市政情報を市民が誤解してしまうことがあることがわかった。さらに、届いた情報が自分の意見と違う場合にその意見を表明できる場がなく、このような市民同士の交流は、幅広い意見を踏まえ市民が情報について考えることができることから重要であることもわかった。

そこで、ワークショップでは、まず情報が届いていない市民に情報を届けるためには、「行政は情報を多様な手段かつ市民が理解しやすい内容で提供することが重要である」という市民からの意見が多くあった。例えば、世代によって情報の入手の仕方が異なるため、新聞やラジオ、テレビなどのマスメディアはもちろん、若い世代に向けては、手軽さなども考慮して SNS で情報発信を行うことが必要である。

次に、市民に当事者意識を持ってもらうためには、「届いた情報に対し、市民が自身の生活などにどのような影響を及ぼす可能性があるのかをわかりやすく示して欲しい」という市民からの意見があった。行政は施策やプロジェクトに関する内容に加え、メリットやデメリット、その施策やプロジェクトが進められることによる市民の暮らしの影響や変化を合わせて発信することが重要である。

最後に、市民に正しく情報を伝えるためには、市民が誤解なく情報を受け取ることが重要である。そのためには、「施策やプロジェクトについて気軽に札幌市から情報提供をしてもらえる場がほしい」「疑問や懸念点について気軽に問い合わせられるようにしてほしい」という意見が市民から出された。行政は、デジタルプラットフォームの用意やワークショップ、オープンハウスの開催といった、行政が直接情報発信する機会と手法を増やすことが必要である。また、市民は、受け取った情報が正しいのかについて、行政が直接発信している情報も含め、様々なメディアから情報を取得し、判断をする必要がある。さらに、市

民はデジタルプラットフォームやワークショップへの参加から、正しく情報を取得しつつ、ほかの市民との意見交換を通じて、幅広い視点を持つことも重要である。

## 2. 市民の意見を行政に届ける方法や市政への参加のあり方

ワークショップでの意見交換を通じて、行政は、市民への市政に参加することの重要性とその機会についての周知が必要であることがわかった。

ワークショップでは「まずは市政に参加することの重要性を周知するべきだ」という意見が出された。自分たちの税金が有効に使われているか意識すること、市政に参加することの重要性を理解してもらい、若い世代や働き世代が市政に参加する意識の醸成が重要である。

また、市民の意見を行政に届ける方法としては、「デジタルを活用しながら、市政に対して気軽に意見を出せるような仕組みを用意してほしい」という意見が出された。パブリックコメントなどの既存の取組は市民の認知度が低く、多様な市政への参加の手段を用意することが重要である。例えば、デジタルプラットフォームや SNS の活用、意見を投函できる場を設けるといった比較的気軽な手段を用意することで、若い世代や働き世代が市政に参加しやすい環境を整える必要がある。

さらに、「ワークショップなどのように、意見交換を行うことができる機会を増やして欲しい」という意見もあり、ワークショップのような対面での議論の場が定期的で開催されることで、市民同士の交流による市民の考えの醸成が期待でき、市民同士の交流から活気あるまちづくりにも寄与すると考えられる。意見交換の場においても、リモートでの参加などの用意をすることで、若い世代なども含めより幅広い市民が参加できる環境を整えることが重要である。また、議員が市民を対象に勉強会やワークショップを開催し、市民の意見を聞きながら市政に反映させることも重要である。

## 6章 資料編

### 1 情報提供資料

**令和5年度**  
**市民自治を考える市民ワークショップ**  
**市民の意見を市政に反映させるために**

日時: 令和6年2月23日(金・祝) 13:00~16:00  
場所: 北海道立道民活動センター 大会議室  
主催: 札幌市 市民文化局 市民自治推進室

本日のプログラム

13:00	+	1. 開会、あいさつ
13:05	+	2. 情報提供1(15分)
13:20	+	3. 情報提供2(20分)
13:40	+	4. 休憩(10分)
13:50	+	5. ワークショップ1(50分) ・行政からの情報共有の方法について ・市民が考えを深めるための方法について
14:40	+	6. まとめ1(15分)
14:55	+	7. 休憩(5分)
15:00	+	8. ワークショップ2(40分) ・市民が市政に意見を届けるための方法について
15:40	+	9. まとめ2(15分)
15:55	+	10. 閉会のあいさつ、アンケート記入

1

情報提供 1

2

令和5年度

**市民自治を考える  
市民ワークショップ**

札幌市市民文化局 市民自治推進室

自治基本条例キャラクター「じっちい」  
まちづくり応援キャラクター「まっちい」



**「市民参加」  
どうして必要?**



SAPP\_RO

背景①

ちほうぶんけん  
○地方分権

⇒それぞれの自治体が  
自治体の責任で考え、  
決めていくことが  
増えた



SAPP\_RO

背景②

○資源（お金・人など）は  
限りがある。

○地域の課題は複雑多様化。

SAPP\_RO

だから！

より一層知恵を出し合い、  
工夫をしながら  
課題に向き合う必要がある！

SAPP\_RO

そこで！

**市民**  
⇒意見を言う

**行政**  
⇒聴く・  
検討する  
ことが大切。

安全に安心して暮らせるまちにしたい！  
快適な生活環境をつくりたい！  
子どもとお年寄りも明るくて元気なまちにしたい！

子育て世代目線  
ご高齢者目線  
学生目線  
など...

SAPP\_RO

市民と行政がともに考える

⇒様々な課題を解決し、より良いまちにすることが可能に！

僕も意見があるよ！  
もっとこうしたら？  
私は賛成！  
変えたい

市役所  
市民の皆様

SAPP\_RO

札幌市では、  
「情報共有」と「市民参加」を  
条例で定めています！

**自治基本条例**

SAPP\_RO

①自治基本条例とは？

⇒まちづくりの基本となる条例

- 平成19年4月1日施行
- 「市民が主役のまちづくり」を進めるための基本理念
- 札幌市の「まちづくりの最高規範」

SAPP\_RO

②重要ポイントは2つ！！  
～情報共有と市民参加～

**情報共有**

■■を  
検討中

市では○○を  
行っています

△△が  
課題です

なるほど

なるほど  
こうすりな

**市民参加**

・身近な地域のまちづくりへの参加  
・市政への参加

(例)  
・高齢者や子どもの見守りに参加  
・ごみ拾いに参加  
・市政のワークショップに参加

SAPP\_RO

まとめ

★まちづくりは市民が主役  
★「情報共有」と「市民参加」  
は欠かせない

SAPP\_RO



### ～札幌市の市民参加の状況～ (市政への参加)

#### ○パブリックコメント

施策等の名称	実施時期	市民参加の経緯	市民参加の経緯
札幌市議会議員選挙 区割りの変更案	令和4年11月1日～令和4年11月14日	札幌市議会議員選挙区割り変更案（案）	札幌市議会議員選挙区割り変更案（案）
札幌市議会議員選挙 区割りの変更案	令和4年2月2日～令和4年2月10日	札幌市議会議員選挙区割り変更案（案）	札幌市議会議員選挙区割り変更案（案）

SAPP\_RO

### ～札幌市の市民参加の状況～ (市政への参加)

#### ○キッズコメント

SAPP\_RO

### ～札幌市の市民参加の状況～ (市政への参加)

#### ○市民アンケート (市民意識調査)

SAPP\_RO

### ～札幌市の市民参加の状況～ (市政への参加)

#### ○市民アンケート (ネット上のリアルタイムアンケート)

SAPP\_RO

### ～札幌市の市民参加の状況～ (市政への参加)

#### ○ワークショップ

SAPP\_RO

### ～札幌市の情報共有の状況～

#### ○広報さっぽろ

SAPP\_RO

### ～札幌市の情報共有の状況～

#### ○出前講座

実施回数	テーマ
134回	暮らしの分け方・出し方・減らし方 ～クワイアミーティング～
32回	災害・危機に備えて ～地図・風水書・土砂災害など～
23回	ご存知ですか？在宅に備えた火災危険と対策
21回	投票箱を開く～票の込め方と投票機に備わらないために～
16回	子どもたちを虐待から守るために

SAPP\_RO

### ～札幌市の情報共有の状況～

#### ○各種SNS

SAPP\_RO

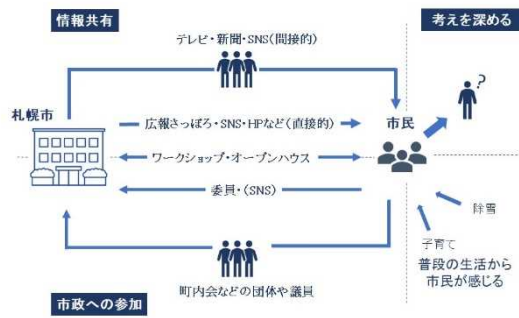
# 終



SAPPORO

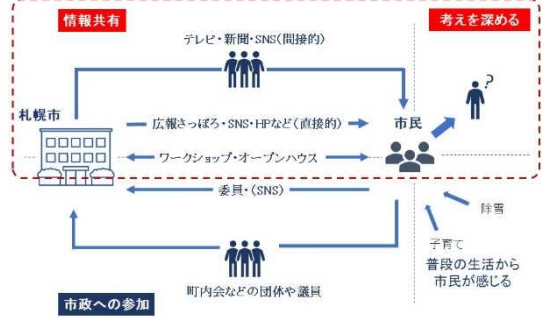
## 情報提供 2

### 1. 市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れ



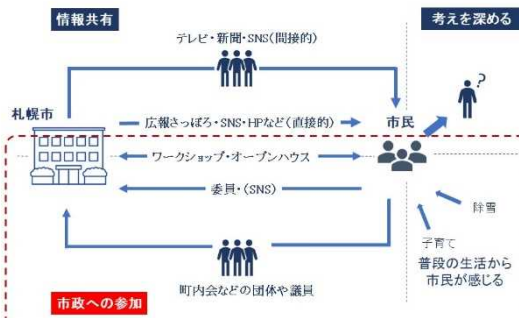
24

### 1. 市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れ



25

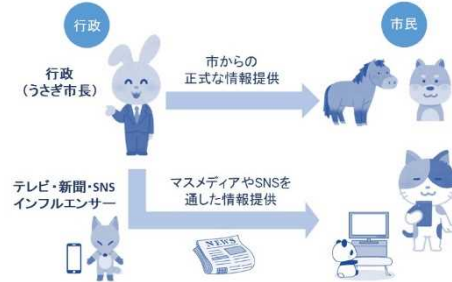
### 1. 市民の意見を市政に反映させるまでのこれまでの流れ



26

### ●「アニマルの森市」でみてみると

#### 「ニンジン食べようキャンペーン」の実施が行政から発表



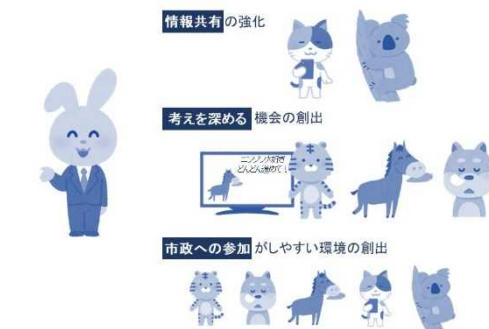
27

### アニマルの森市の市民の反応は...



28

### そこでウサギ市長は...



29

## 2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

### (1) 住民説明会への参加

- 札幌市などの行政がまちづくりに関して説明する会に参加する方法です。

情報共有

考えを深める

市政への参加



札幌市 丘珠空港の将来像(案)に関する住民説明会

30

## 2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

### (2) 審議会・委員会への参加

- 札幌市が主催する、審議会(行政機関が意思決定を行う際に意見を求める複数人の機関)や委員会(上位機関のために作業する機関)に市民委員として参加してもらう方法です。

情報共有

考えを深める

市政への参加



札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会      真駒内駅前地区まちづくり検討委員会

31

## 2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

### (3) オープンハウス

- 公共空間などを活用し、通りがかった人に声をかけて、積極的に意見を集める方法です。

情報共有

考えを深める

市政への参加



丘珠空港の将来像(案)に関するオープンハウス(苗穂イオンモール)

札幌市 戦場ヶ原オープンハウス(地下歩行空間で実施)

32

## 2. 札幌市の市政に市民の意見を届ける方法

### (4) 意見交換会・交流会

- テーマを設定し、自由に意見を交わってもらう方法です。
- 未来塾+LABOでは、地域コミュニティについての意見交換会を行いました。
- そしてその結果を踏まえ、「家に帰る前にふらっと立ち寄る地域の場所」の創出のために、実際にイベントを実施し、参加者からも意見を募集しました。

情報共有

考えを深める

市政への参加



第1回未来塾+LABO      第3回未来塾+LABO

33

## 2. 他都市の事例: 静岡県牧之原市


### (1) 話し合いの場「男女共同サロン」

- 人口 約4万5千人
- 『津波防災まちづくり計画』を策定をきっかけに「男女共同サロン」として市民がまちづくりに関して話し合う仕組みができた。
- 話し合いの進行は市民が行い、行政職員や専門家なども同じ立場で話し合う。
- まちづくりへの思いを、住民同士で話し合い、実現させる場となっている。

情報共有

考えを深める

市政への参加



34

## 2. 他都市の事例: 佐賀県武雄市

### (2) SNSを使った行政と市民のコミュニケーション

- 人口 約4万8千人
- 1万4000人以上が「いいね!」し、リアルタイムで市民と行政のコミュニケーションができるチャンネルとして使われている。
- 例えば、路面のトラブルでは投稿があった翌日に道路整備の担当の課が現地に向かうなど、武雄市は迅速な対策がとられている。

情報共有

考えを深める

市政への参加



35

## 2. 他都市の事例: 神奈川県横浜市

### (3) 財政のみえる化と官民連携の提案窓口

- 人口 約372万人
- WEBサイト「横浜市財政見える化ダッシュボード」を開発し、民間事業者の皆様が、各予算事業に対して公民連携の提案ができる機能をつけている。
- 民間事業者からの連携に関する相談・提案を受け付ける総合窓口として、「共創フロント」を設置し、運用。
- 各予算事業ページに「提案ボタン」があり、事業の提案ができるようになっている。

情報共有

考えを深める

市政への参加



36

## 2. 他都市の事例: 富山県氷見市

### (4) 市役所庁舎・フューチャーセンター

- 人口 約4万8千人
- 「氷見市を市民と行政が一番近い街にしたい」という市長の考えから、多様な主体が対話を通じて問題解決を考え、実行する場を市役所庁舎を設けた。
- フューチャーセンターは市民やNPOなどさまざまな人が出入りし、話し合い、クリエイティブな対話を促す場となっています。
- 市民との協働をコーディネートする役割として、地域担当職員を配置しています。

情報共有

考えを深める

市政への参加



37

## 2. 他都市の事例：台湾

(6) vTaiwan

情報共有  
 考えを深める  
 市政への参加

- 「vTaiwan」は台湾に居住する国民なら誰でも意見を投稿したり、他の人の意見に「いいね」したり、コメントでディスカッションしたりできます。
- 一つの提案に5000人以上の賛同者が集まると、行政側は必ず請願として受け付け、書面にて回答を出さなければなりません。
- SDGsにまつわるもの、かつ幅広い部門が関わるような提案については、ステークホルダーと関連の政府部門が参加して、議論することになっています。

議題

インターネット上にあるvTaiwanでの  
全国民からの意見の発言、投票

賛成      反対

5000人以上なら行政は請願として受付、書面にて回答

38

## 2. 他都市の事例：アメリカ

(6) Decidim

情報共有  
 考えを深める  
 市政への参加

- Decidimは、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースの参加型合意形成プラットフォーム。
- アメリカのニューヨークでは19歳から24歳の若者が参加でき、アイデアの提出・投票権を付与。投票には、紙の投票用紙・電話投票の手段もあります。

**アイデア**

例) ぼこのぬいぐるみを捨てるごみ箱の増設  
 隣家への防音  
 図書館の増設  
 花や木を植える...

紙や電話での投票も受け付けている。

「Decidimを使ったサイトからの投票、さらなるアイデアの投稿」

**予算・優先順位決定**

図書館の増設...△△△△\$  
 防音...□□□□\$  
 ごみ箱の増設...○△△△\$  
 花や木を植える...××××\$

39

### その結果市政はどうなったのか...

「ニンジン食べようキャンペーン」

「お肉の付け合わせにもニンジン！キャンペーン」

ニンジン好きが増えるといいな

肉と一緒に食べてみるか

これを機にニンジンも食べてみようかな

アレルギーかもしれないから気をつけて食べよう

どっちも食べないからまあいいかな

どっちも食べないからまあいいかな

40

## 休憩

41

## ワークショップ1

市民が必要な情報を得て、市政に関する考えを深めるためには？

42

### アニマルの森市の市民の反応は...

ニンジン大好き  
どんどん進めて！  
(賛成！)

ニンジンしか  
食べられないってありえない  
(動揺してしまっ)

肉がよかったな...  
僕みけしないないのかな？  
(意見に自信がない)

なんでもいよいよ  
(無関心)

そんなことやるなんて知らないよ  
(情報が届いていない)

ニンジン好き  
どんどん進めて！  
(賛成！)

43

### ワークショップ1のポイント

- 情報が十分に届いていない人には、どのように情報を届けるのか。
 

なんでもいよいよ〜  
(無関心)

そんなことやる  
なんて知らないよ  
(情報が届いていない)
- 特定の情報しか届いていない人には、どのように様々な情報を届けるのか。
 

ニンジンしか  
食べられないってありえない  
(動揺してしまっ)

肉がよかったな...  
僕みけしないないのかな？  
(意見に自信がない)
- さらに考えを深めるために、どのようにすればいいのか。
 

ニンジン好き  
どんどん進めて！  
(賛成！)

44

## 休憩

45

## ワークショップ2

誰もがあらゆる方法で  
市政への参加できるようにするためには？

46

### ワークショップ2のポイント

- ・アニマルの森市の市民が市政に参加するためのアイデアは？

子育てや勉強・仕事で忙しいよ



家からでたくないよ・できないよ



私が考えを届けてもな…



考えてどう届けるの？



47

## 2 アンケート票

### 「市民自治を考える市民ワークショップ」 アンケート

今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力下さい。

#### 〈回答用紙の記入方法のお願い〉

ご回答にあたっては、設問ごとの説明にしたがって、あてはまる○印に**黒色インク**の筆記用具でチェックをつけてください。その際、「1つに」、「あてはまるもの全てに」などそれぞれ指定されていますので、ご注意ください。

正しい      誤り  
●   0      ○   0   0

#### 質問1 「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加された感想をお聞かせ下さい。最もあてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1 0 大変満足      2 0 満足      3 0 不満足  
4 0 大変不満足      5 0 その他

(2) (1) で「大変満足」「満足」とご回答された方にお伺いします。

その理由は何ですか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 市政に参加できたから      2 0 他の人の意見を聞くことができたから  
3 0 報酬がもらえるから      4 0 新しい気づきや発見があったから  
5 0 その他

(3) (1) で「不満足」「大変不満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 有意義な話し合いができなかったから      2 0 市政について理解できなかったから  
3 0 思ったより大変だったから  
4 0 その他

#### 質問2 情報提供について

(1) 市民自治に関する基礎情報や、先進事例の紹介などの情報提供について、

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 分かりやすかった      2 0 大変参考になった  
3 0 もう少し詳しく聞きたかった      4 0 よくわからなかった  
5 0 その他

(2) (1) で「よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 内容が難しい      2 0 説明が不十分  
3 0 用語が難しい      4 0 話が聞き取りにくい  
5 0 説明の時間が短い      6 0 その他

#### 質問3 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について、あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 話しやすい方法だった      2 0 最初はなかなか言葉が出にくかった  
3 0 話しづらかった      4 0 その他

(2) (1) で「話しづらかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。(自由回答)

裏面に続きます

質問4 参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1  市民自治への理解が深まった  
2  市民自治への関心が高まった  
3  自分の考えを整理することができた  
4  他の人の意見が参考になった  
5  意見を言うことの難しさを感じた  
6  特に何もなかった  
7  その他

質問5 市民が市政への参加やまちづくり活動について考え、意見を出すワークショップを実施することについて、どのように思いますか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1  市民の意見が反映されるので良いことだと思う  
2  専門家で実施した方が良いと思う  
3  より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う  
4  その他

質問6 今後もこのような取組に参加したいですか。最もあてはまるもの1つにチェックをつけてください。また、その理由は何ですか。(自由回答)

- 1  ぜひ参加したい  
2  参加したくない  
3  どちらとも言えない  
4  その他

【その理由】

[ ]

質問7 回答者さま自身について

(1) あなたの性別を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1  男  
2  女  
3  その他

(2) あなたの年代を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1  20代  
2  30代  
3  40代  
4  50代  
5  60代  
6  70歳以上

質問8 その他、ご意見・ご感想、ワークショップのあり方などについてご自由にお書きください。

[ ]

ご協力ありがとうございました。